

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

みらい

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

近年、岡山市郊外で住宅地として発展した妹尾地域で、パン屋さんが義母の要介護者になったことを機に、同じ境遇を持つ人達と一緒に社会貢献する目的で、このグループホームを平成16年7月に開設した。当時ホームのホームページの中で「介護する者の苦勞、介護される側の尊さ、どちらもほんの少しでも軽減したい。それぞれが、その人らしく生きるお手伝いをしたい。その人の心を大切に、一緒にホームを育てていきたい」と代表者の思いがあった。当時、ホームを任された管理者は、大型施設の中ではやり得なかった「ひとりときちんと向き合う」というケアを目指して「自由に過ごして頂きたい。何でもありの暮らしにしたい」というホームに育てた。その次に引き受けた管理者も、「自由な雰囲気、明るく元気に過ごしているホームの様子、利用者の表情が良かった」ことから働きたいホームだと就職して、後を引き受けたそうだ。代表者は、殆んどのことを管理者と職員に任せているので、代表者や歴代の管理者が当初の気持ちを受け継いで、今日のホームが4年間を経過しつつある。

2階建てのホームの1・2階にユニットがある。2つのユニットは利用者も違うし、管理者・職員の性格もあり、それぞれの雰囲気を持っている。1つのユニットは個人の知的能力や趣味を生かして静かに暮らしている「静」の雰囲気、他のユニットは皆で歌を歌ったり、皆で作品を作って楽しんでいる「動」の雰囲気をそれぞれに漂わせている。

ホームの理念は「笑顔広がるやすらぎの場所」とあるが、利用者一人ひとりが何をしたいのか、どんなことを望んでいるのか、その人の目指している生活は何か、等を職員はしっかり受け止め、その人の居心地の良さを創造していくという利用者中心の生活を重要視するケアのあり方は、2つのホームが一致するところであり、自由な雰囲気のもと、笑顔いっぱいの笑顔で過ごせるホームを築くことは、代表者が当初目指した方針をずっと貫いていることがよく分かる。

近くには岡山市のふれあいセンターがあり、その施設も活用できるし、大きなスーパーや商店街もある買物や散歩には事欠くことのない良い立地条件のもとで、利用者はよく外出もして、楽しみのある暮らしができています。地域からの利用者も多く、家族の訪問も少なくない。又、地域との連帯も推進会議や日常のお付き合いの中でますます深まっている。

ホーム内のケアの質の向上及び家族と地域の関係の良さにおいても、まさに地域密着型サービス提供者にふさわしいホームが今後も続いていくであろうと期待している。

**特に改善の余地があると思われる点**

利用者の高齢化や認知症の病気の進行による症状の変化をしっかり把握しておき、利用者の状態の変化したことに対する要因を介護計画の中に組み入れて、利用者の生活と介護計画が完全に連動したものにしてケアマネジメントできるようにしてみたらどうかと思う。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームの理念、つまりホームの内容を地域の皆さんにもよく知ってもらいたいと今後の対応について考えていきたいとしている。グループホームの中で実際に利用者に対して行っている職員のケアや利用者に対する気持ち等の取り組み方をもっと知ってもらう必要があると思うので、色々な機会で、グループホームというものをよく理解してもらえようお互いに努力していきたいと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：「笑顔の広がるやすらぎの場所」を理念として、ケアの方針として「居心地の良さを創造する」「利用者の能力を生かした生活をする」ことをあげている。利用者と職員の係わり合いや生活の行動を見ていると、その方針に沿った職員の行動に納得できる。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：建物及び設備、外回りの施設について改善する必要があるところはない。各ユニットの生活空間もゆったりとしたスペースで利用者の思い思いの自由な生活をしている様子がよく分かる。外部には広い敷地の中に菜園もあり、ここで春になれば色々な作物も育っていくだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：1階と2階の各ユニットが配置されており、それぞれのユニットでは、利用者の得意な能力を発揮した作品作りに挑戦をしたり、利用者が一緒になってゲームをしたり、体操や歌を歌って楽しい生活をしている。居室も自分の馴染みの家具や道具を持ち込み、それぞれの住まいを形成している。周囲は商店街や福祉施設がある。中心街で買物や散歩を楽しみ、近所の人との交流も深めている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主と評価について…：ケアマネジメントについては、主要なケア項目については確実に実施しているが、まだ良くしていこうとする意欲と工夫は持っており、職員が協力し合って、利用者にとって安心できるホーム質の向上を目指している。</p> <p>2、全体的に見て…：訪問調査の日、89歳と、81歳になった利用者の誕生日を祝った。手作りのケーキとお茶、そして、歌でお祝いをして、ホームからのプレゼントが贈られた。利用者一人ひとりがこのホームに入所し、皆と一緒に生活しながら、楽しい思いをして、少しでも人間性を取り戻し、表情も豊かになって家族からもよくなった姿を喜ばれている人も多い。反面、高齢化や認知症になる病気によって症状も進んで、その人の能力の衰退も否定できない現状を少しでも適格なケアによって安定させるためには、介護計画にもあわせる介護項目の選択も重要となる。今後の課題として、その人にとって何が必要なケアなのかを求める介護項目の抽出の仕方を検討していく必要もある。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：地域との繋がりについては色々な機会を捉えて、改良しているが、更に運営推進会議等も活用して改良していこうと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームの設立当初からの利用者や地域の人への思い等その精神は今日まで貫いて管理者や職員の努力によって健全な運営を営んできている。</p> <p>4年半という経緯より踏まえて、一度認知症になってしまった方の気持ちや心をもう一度じっくり考えてみることも必要かと思う。認知症の方が、大抵は不満、不安、不信の塊になり、色々な情動によって精神的にパニック状態に混乱する。あるいは精神的に人間性を失ってしまう。それをホームの介護職の手厚いケアによって安定した生活が送れるようになっている事実は有難いことであるが、まだまだ普通の人の常識で認知症の方に接していることも多いと思うので、普通の生活の中から何か矛盾点を見出してみるのも面白いかも知れない。</p>		